

昭和51年 WHEEL HOUSE, CONTROL ROOM

1. 「空知丸」 「船の科学」1976-6 (Vol.29, No.6) より採取。

・日本国有鉄道向け 車輛運搬船 「空知丸」 総トン数 4,123.60 T 搭載車輛数 55 台

・船主 : 日本国有鉄道

1) W51-01 空知丸 本船全景

・建造 : 函館ドック(株) 函館造船所
昭和51年3月31日竣工



- ・1) は本船全景、青森 - 函館間航走
- ・2) は操舵室、レーダは2台、衝突予防装置としてスペリーのCAS-101を装備。
- ・3) は機関制御室、主機関、発電機関および各補機の集中制御監視および遠隔操作ができるよう主機関、発電機関操作盤、データ・ロガーおよび集合管制器盤が設置されている。主機ディーゼルは 2,000ps×8台 2軸。

2) W51-02 空知丸 操舵室



3) W51-03 空知丸 機関制御室



2. 「北斗丸」 「船の科学」1976-7 (Vol.29, No.7) より採取。

・練習船 「北斗丸」 総トン数 5,856.25 T 乗組員 職員 34 名、部員 42 名、実習生 168 名 計 244 名

・船主 : 運輸省 航海訓練所

・建造 : 日本鋼管(株) 清水造船所
昭和51年6月 竣工

4) W51-04 北斗丸 本船全景

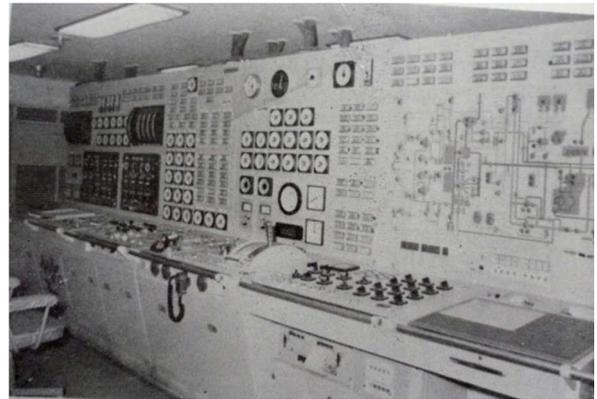
- ・4) は本船全景。
- ・5) は操舵室、レーダは Xバンド、Sバンド 各1台 衝突予防装置付。
- ・6) は機関制御室、主監視盤。中央に主タービン操縦盤と監視盤、左側に発電機制御盤と主ボイラーの制御盤、右側に補機監視盤とプラントのグラフィック・パネルが配されている。



5) W51-05 北斗丸 操舵室



6) W51-06 北斗丸 機関制御室



3. 「春日丸」

・「船の科学」1976-10 (Vol.29, No.10) より採取。

・30次船、我国最大の超高速フルコンテナ船「春日丸」日本・欧州間高速コンテナ・サービス(パナマ運河経由) DWT 43,896t コンテナ積載数(最大20換算) 2,326個(レフコン 176個)

主機タービン 40,000 PS 2基2軸
発電機容量 計 10,000 kVA パウ
スラスタ装備、最大速力 28.98 kn

・船主 : 日本郵船(株)

・建造 : 三菱重工業(株)神戸造船所
昭和51年8月27日 竣工

- ・7-1) 7-2) は本船全景。
- ・8) は操舵室、本船には総合航海システムとして、ノルコン社の Data Bridge System が装備されている。
- ・9) は総合事務室。ここにはコンソールが設けられ、燃料油およびバラストラインのバルブ操作、これらタンクの液面指示/液面レベル警報などが行えるようになっている。

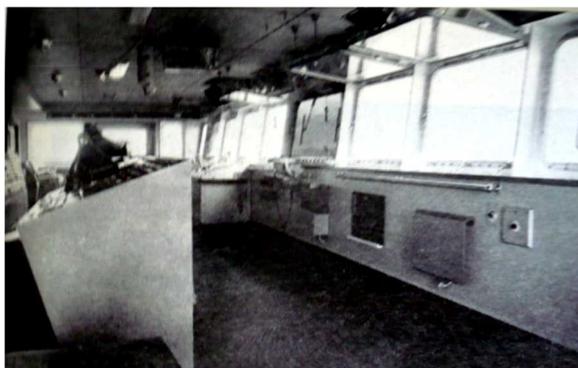
7-1) W51-07-1 春日丸 本船全景(1)



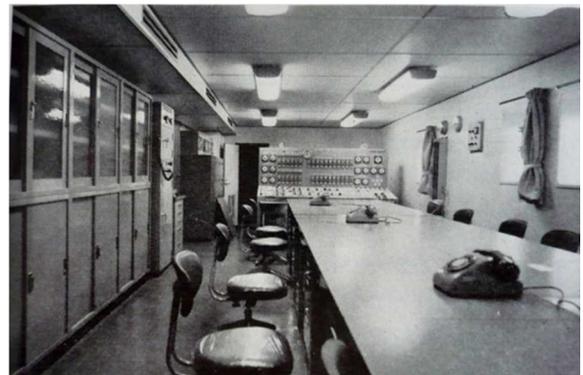
7-2) W51-07-2 春日丸 本船全景(2)



8) W51-08 春日丸 操舵室



9) W51-09 春日丸 総合事務室



4. 「LAS GUASIMAS」 「船の科学」1976 - 12 (Vol.29, No.12) より採取。

・キューバ向けタンカー「LAS GUASIMAS」 10)W51-10 LAS GUASIMAS 本船全景

DWT 5,541t 洋上補給タンカー（漁船など
に対する油補給）

- ・船主 : キューバ共和国 漁業省
- ・建造 : (株)新潟鉄工所
昭和51年8月14日 竣工

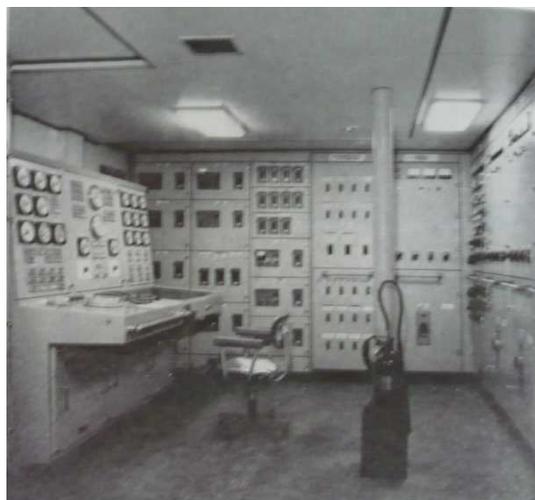
- ・10)は本船全景
- ・11)は操舵室
- ・12)は機関制御室



11)W51-11 LAS GUASIMAS 操舵室



12)W51-12 LAS GUASIMAS 機関制御室



5. 「ESSO JAPAN」 「船の科学」1977 - 1 (Vol.30, No.1) より採取。

・ESSO 向け400型シリーズ油槽船（超巾広船型）第1船 「ESSO JAPAN」 DWT 400,219Lt
全長 362m、巾 70m、 深さ 28.1m、 主機はタービン 45,000 PS

- ・船主 : Esso Tanker Inc.
- ・建造 : 日立造船(株)有明工場 昭和51年5月18日 竣工

13)W51-13 ESSO JAPAN 本船全景

- ・13)は本船全景。超巾広船型(70m)
と云われるだけあってさすが大きい。
48万トンのGLOBTIC TOKYO
(昭和48年)でも巾は62mであっ
た。
- ・14)は操舵室
- ・15)は機関制御室、主機関の遠隔操
縦及び機関プラント全体の集中監視
を行う。



14) W51-14 ESSO JAPAN 操舵室



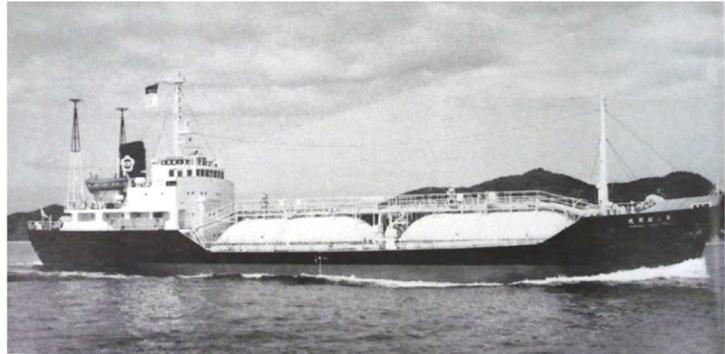
15) W51-15 ESSO JAPAN 機関制御室



6. 「第二国周丸」 「船の科学」1977-2 (Vol.30, No.2) より採取。

- ・液体アンモニア運搬船 「第二国周丸」 DWT 1,374.50 T
- ・船主 : 船舶整備公団、国華産業
- ・建造 : 内海造船(株)田熊工場
昭和51年10月25日 竣工

16) W51-16 第二国周丸 本船全景

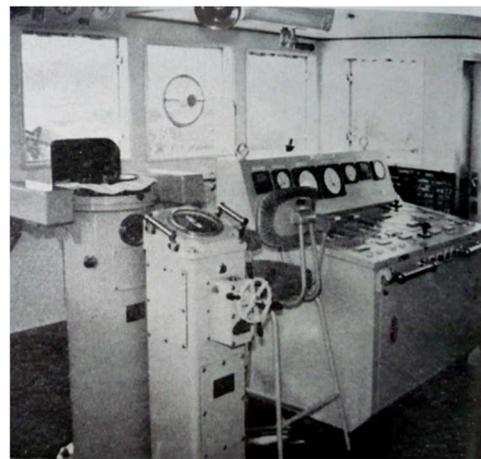


- ・16) は本船全景。
- ・17) は操舵室、操舵スタンドの前は操舵羅針儀。
- ・18) は操舵室内のLAG(液体アンモニア) 荷役遠隔操作盤。

17) W51-17 第二国周丸 操舵室



18) W51-18 第二国周丸 LAG 荷役遠隔操作盤



[メモ]

- 1) 原油高となったが、超高速フルコンテナ船「春日丸」や40万タンカー「ESSO JAPAN」などタービン船の建造は続いていた。
- 2) 衝突予防レーダは昭和40年代から装備されたが、総合航海システムとして、船位測定、船位推定などと一体でまとまってきた(春日丸 Data Bridge System)。
- 3) 珍しい船としては、洋上補給タンカー、液体アンモニア運搬船など。